



岐阜県政記者クラブ加盟社各位

令和8年5月7日(木) 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
病虫害防除所	企画情報係	渡辺	直 通 058-239-3161
			F A X 058-234-0767
農産園芸課	環境保全農業係	猪原	内 線 4115
			直 通 058-272-8428
			F A X 058-278-2692

## 「クビアカツヤカミキリに係る説明会」を開催

平成24年に国内で初確認された「クビアカツヤカミキリ」は、年々生息域を拡大しており、これまでに16都府県で侵入・定着が確認されています。当県においては、本年2月に西濃地域のサクラ1樹で幼虫の生息が確認され、国内17番目となる発生予察特殊報を発出しました。

「クビアカツヤカミキリ」は主に、バラ科の樹種に産卵し幼虫が食い入り、樹木を衰弱させやがて枯死させる害虫で、国内ではサクラでの寄生が多く確認されています。

農業被害としては、同じくバラ科のウメ、モモ、スモモでの食害が報告されており、それらの主産地で大きな問題となりつつあります。

当県においても、ウメやモモの栽培があり、さらに、同じバラ科の果樹であるナシやリンゴの産地があることから、標記の説明会を開催し本虫の特徴や生理生態への理解を深めるとともに、今後の対応・対策を検討します。

### 記

#### 1 日 時

令和8年5月12日(火) 13:30~16:00

#### 2 場 所

岐阜県農業技術センター 3階 講堂(住所:岐阜市又丸729-1)

#### 3 内 容

13:30~13:45 開会及びこれまでの経過

13:45~15:15 クビアカツヤカミキリの生態と特徴並びに対策について

講 演:クビアカツヤカミキリの生態と特徴

東海農政局消費・安全部農産安全管理課長 いしかわ 石川 ようすけ 陽介 氏

講 演:クビアカツヤカミキリの対応と対策について

中部地方環境事務所野生生物課 自然保護官 おおだけ 大嶽 わかお 若緒 氏

15:25~15:35 岐阜県病虫害防除所からの報告

報 告:県内の生息域調査の結果について

岐阜県病虫害防除所 すずき 鈴木 なおと 直人

15:35~16:00 意見交換

#### 4 参加者 市町村、県、国、JA 約80名

### <病害虫防除所>

病害虫防除所は、植物防疫法（昭和25年5月4日制定 法第151号）第32条に基づき、地方における植物の検疫及び防除に資するため各都道府県に設置され、植物の検疫、防除の企画や指導と協力、病害虫の侵入調査や発生予察調査等を行います。当県は、岐阜県農業技術センター内に設置しています。

### <発生予察事業>

植物防疫法（前掲）第23条に規定された国が行う発生予察事業と第31条に規定された各都道府県が行う発生予察事業があります。発生予察事業は、有害動物又は有害植物の防除を適時で経済的なものとするため、それらの繁殖、気象、農作物の生育等の状況を調査して、農作物等の損害の発生を予察し、その情報を関係者に提供しています。

### <クビアカツヤカミキリ>

#### ○学名

*Aromia bungii* (Faldermann)

#### ○生息域、生態

中国大陸を生息域としています。

成虫の体長は約2.5mm～4.5mmで、全身は光沢のある黒色、前胸背板（首の部分）が鮮やかな赤色を呈するのが特徴です。幼虫は乳白色の芋虫状で、樹体の形成層から木質部にかけて食害し、1～3年かけて羽化します。

成虫は年1回、6月中旬～8月にかけて羽化・出現し、雌成虫は1個体あたり300個以上の卵を産むなど極めて繁殖力が高いため、短期間での被害が拡大する恐れがあります。

#### ○被害の特徴

主にバラ科の樹種を食害することが知られています。

国内ではまず、サクラでの食入・食害が知られており、農業被害としては、同じくバラ科の果樹である「ウメ」「モモ」「スモモ」での食害が確認され、産地においては枝の切断や樹体を切り倒して植え替えるなどの被害も報告されていて、警戒が広まっています。